

December 31, 2022

教育ローマ字新ガイド（レジュメ版）

教育ローマ字を手短に紹介するための資料です。スライド版とあわせてご覧ください

教育ローマ字とは

- 独自の文法理論に基づいた日本語教育のための日本語ローマ字表記法
 - 現代仮名遣いで書かれた文章について、次のことを教えられるようにする
 - パソコンやスマホでローマ字入力するにはどう綴ればいいのか？
 - これはどう読むのか？
 - なぜこう発音するのか？
 - なぜこの形を使うのか？
 - 他にどんな形が可能で、何が不可能なのか？
 - 上が初級、下が上級の想定
 - 規則の適用も上が下に優越する
 - 文法の仕組みを説明するための規則よりも、発音を示す規則が優先
 - 発音を示す規則よりも、ローマ字入力の方法を示すための規則が優先
 - 改訂に際しても、方針として 1 入力、2 発音、3 文法 という優先順位を守る
- 第一義的な対象言語は現代東京方言の標準的な変種
 - 単に「日本語」という場合、この変種を指す
- ただし、教育ローマ字が適用可能かどうかはその場その場で判断して良い

曲線声調

- 重要：日本語は声調がある言語

- 大きく分けて二種類の曲線声調を区別する
 - 男（**オトコ**）
 - あなた（**アナタ**）
 - 落ち葉（**オチバ**）
- 下がり調子の声調を「下降調」といい、F と書き、そうでない声調を「非下降調」といい、nF と書く場合がある (児玉 2008)
- F、nF とともに、長さの制限はない
 - **ア**ポイントメント
- 全体の声調の組み合わせは語の組み合わせによって決まる。F の区間が非常に長くなることもある
 - 好きだったんだから（**スキ**ダッタⁿンダカラ）

アクセント

- nF の範囲が単語ごとに決まっているため、それをアクセント記号で示す
- アクセント記号 (' (modifier letter vertical line)) を「最後の nF モーラの直前」の位置に挿入する
 - 子供より（コドモ'ヨリ）
 - 男より（オト'コヨリ）
 - あなたより（ア'ナタヨリ）
 - 落ち葉より（'オチバヨリ）
- アクセント記号は IPA stressed syllable と同じもの。アポストロフィではないことに注意

AP

- 声調の割り当てを正しく行うためには、「区切り」が非常に重要
- 以下でスペースで区切る単位を仮に「パーツ」とする
 - 子供より（コドモ' ヨリ）
 - 男より（オト'コ ヨリ）
 - あなたより（ア'ナタ ヨリ）
 - 落ち葉より（'オチバ ヨリ）
- 「パーツ」には、アクセント記号があるものとないものがある
- アクセント記号がある「パーツ」から始まる互いに重ならない単位を AP という
- AP は声調の割り当て単位の一つ
 - 冒頭は必ず nF
 - F がある場合は必ず最後が F
 - nF-F となる部分が最大で一箇所しかない
 - F-nF は決して現れない
- nF-F の位置はアクセントで決まるが、AP に複数のアクセントがある場合、最後のアクセントのみが有効
 - ya'sé'r-u (nF-nF-nF)
 - 記号・(middle dot) については後述。発音を知るだけなら無視しても良い
 - このことは「アクセントは nF を指定するが、F は別のメカニズムで与えられる」と考えると理解しやすい

ローマ字

- US キーボードで日本語をローマ字入力する時の綴りがわかるようにする

- 長音記号は — (em dash) で綴る
- 大文字のひらがな一文字をローマ字二文字以内で綴る
- 拗音は4文字以内、できれば3文字で綴る
- 直音は2文字以内で綴る
- 教えるべき漢字の読みの末尾または文字種（ひらがな、カタカナ、漢字）の境界直前の「っ」は
 - その字の教えるべき音読みの最終音が「く」であり、かつ、後続音が k の場合、k を重ねることで綴る
 - そうでない場合 xtu で綴る
- それ以外の「っ」は、子音の前であれば子音字を重ね、そうでない場合は xtu とする
- 「ん」は nn で綴る
- l と x のどちらかが必要な場合は、x を優先して使う

大文字 (IP)

- nF には実は二種類ある
 - R: 上昇調
 - Lv: 非上昇調
- R は AP の冒頭2モーラ以内に現れることがあるが、同じ単位の3モーラ目以降には現れない（促音がある場合を除く）
- R が現れる単語の冒頭を大文字にする
 - As'i'ta 'Nani, su'ru? (R-R-Lv R-F Lv-Lv)
 - As'i'ta 'Nanika Su'ru? (R-R-Lv R-F-F R-R?)
- R の分布の制約

- 構文関係を三角形で表したとき、内側の三角形に R がある全ての三角形の左のかどに当たる単語は R を持つ
- R を持つ部分（語頭が大文字で書かれる単語）から始まる互いに重ならない単位を IP という
 - IP は1個以上の整数個の AP を含む
- 実際の表記における大文字の使用は任意。使わない場合は、必ず全て小文字で表記する。文中に複数の表記法を混ぜることはできない

条件アクセント

- 名詞につく所有の「の」は直前のモーラが nF 指定を受けているときだけ自分も nF
- この事実を「条件アクセント」で表記する
 - 条件アクセントは、以下の条件で普通のアクセントとして振る舞い、そうでない場合は存在しないものとして振る舞う
 - 自分の1モーラ左かそれより右の位置に普通のアクセントがある；または
 - 直前の語彙項目のアクセントがその最終モーラの右にある
 - ただし、
 - 直前の語彙項目のアクセントがその最初のモーラの左にある場合は、条件アクセントは存在しないものとして振る舞う
- 条件アクセントは下付きのアクセント記号 _˘ (modifier letter low vertical line) で表記する
- 条件アクセントが普通のアクセントとして振る舞うときは、記号を上付きのもの [˘] にする
 - その際、それを条件づけたアクセントを代わりに下付き _˘ にする

母音ドット

- Lv と F の配列には「音節」に対して制約がある
- 音節の区切りを仮にピリオドで表すとき、次のような発音はあるが
 - .Lv-Lv.Lv
 - .Lv-F.F
 - .Lv-F.Lv
 - .F-F.F
 - .F-F.Lv
- 次のような発音はない
 - .Lv-Lv.F
 - .F-Lv.Lv
 - .F-Lv.F
- そこで、次の規則を設定する (以下では 1 はモーラ、ピリオドは音節の区切り)
 - .1'1.F → nF-F.F
- 発話末や大文字の直前などの大きめの区切り (以下では # で表記) のところでは、複数の発音がある
 - .1'1.# → nF-F または nF-nF
- 子音字は必ず音節の境界と隣り合うが、母音が連続する場合は、両母音の間に音節の境界がある場合とない場合がある
- 音節境界を母音の上のドットで示す
 - paé'rià (nF.nF.F.F)
 - tapiòka' (nF.nF.nF.nF)
 - oo'òtoko (nF-nF.nF.F.F)
- これによってさまざまな語の発音の規則を単純にできる

- 「優しいから」と「優しい人」では「優しい」の声調が異なる (nF.nF.nF-F / nF.nF.nF-nF)
 - yasa'si'·i kara
 - yasa'si'·i hi'to
- kara は .F.F. のため、規則により yasa'si'·i は nF.nF.nF-F
- hi'to は .nF.nF. のため、規則により yasa'si'·i は nF.nF.nF-nF
- 子音の直後の母音には音節を示すドットが不要になるため、次の規則に転用する
 - 「は」のうち、「ワ」と発音するものは hà と綴る
 - 「へ」のうち、「エ」と発音するものは hè と綴る
- カタカナ語は一母音一音節の傾向が強いので、連続する母音字の後部には必ずドットをつける
- また、一段動詞の語基の最後の母音は必ず音節の最初の母音なので
 - 一段動詞の語基の最後の母音にはドットをつける
 - 「経る」は一段動詞だが、「へ」の規則と競合するため、ドットをつけない

詞境界

- 発話には単語の区切りのようなものも直接は示されない。しかし、発話は明らかに有限のパーツの組み合わせでできており、学習者が学ぶのもそれらのパーツとその組み合わせ規則である
 - どうやってパーツを切り出す？
 - 言語の科学的な記述、学習用文法の構築、綴り字規則の制定の三者に共通の課題
- IP と AP を切り出すだけでもある程度「使える」分割はできる
 - 発音から明らかな証拠だけを頼りに、IP 境界を大文字で示し、AP 境界をスペースで示した例（現行の教育ローマ字表記ではない）：

- 明日は晴れだといいな。
- Asitawa Haredato II Na
- ただし、「AP がパーツに相当する」という仮説は成り立たない：
 - 「寒がりたがる」という構文は無限に長い AP を作ることができる：
 - 寒がりたがる→寒がりたがりたがる→寒がりたがりたがりたがる→寒がりたがりたがりたがりたがる→寒がりたがり{...}たがりたがる
 - 組み合わせ規則が扱うパーツを切り出すには発音から得られる証拠だけでは不十分
 - 単位を直接探すのではなく、境界の証拠を探す
 - 「明日は晴れだといいな」「明後日は晴れだといいな」「木曜日も晴れだといいな」「シチリアは晴れだといいな」「おばあちゃんちが晴れだといいな」
 - 「明日は」「木曜日も」「おばあちゃんちが」などは全て「晴れだといいな」に前接できる
 - 「晴れだといいな」の左側に「ハレダト境界」とがあると仮定。すなわち
 - 「晴れだといいな」はハレダト境界に後接できる
 - 「明日は」「木曜日も」「おばあちゃんちが」などはハレダト境界に前接できる
 - 「何が何に後接・前接できる・できない」という情報をリストアップし、見つかった境界に名前をつけ、境界同士の関係を記述していく
 - 境界のリストができれば、境界ひとつひとつについて「スペースを入れる・入れない」などの綴りのルールを定めることができる
- 31種の境界が見つかっており、これらを（IP 境界等の音韻的な境界と区別するため）「詞境界」と呼称する。スライドにある A2, A4 はその一部
 - スペースで分割するもの: これらを特に「語境界」と呼ぶ
 - R1: ...か "whether ..."

- R2: の... "(many) of ..."
- R2b: ...の "the fact that ..."
- A1: ...を
- A2: ...なら
- A3: ...こそ "nothing but ..."
- A4 (C2b): のに... "... despite the fact that"
- C1: ...でも "even with ..."
- C2: から... "... because"
- C3: ...だ "is ..."
- C4 (R2c): ...でしょう "I suppose ..."
- P1 (R2d): ...からには "now that ..."
- P2: ...っけ "did you say that ...?"
- P3: ...よ "of course ...! (with a negative connotation with respect to the hearer's expectation)"
- P4: ...って "says '...'"
- 特別な記号で示すもの
 - ・ (middle dot) で示すもの（middle dot は境界の1文字右にある場合がある）：
 - d·i: t·ara (past)
 - d·ii: 'l·è (potential)
 - d·iii: r·arè (honorific)
 - d·iv: i·naga,ra (simultaneous)
 - d·v: i·ha'zimè "to begin ...ing"
 - d·vi: r·rarè (passive)

- k-i: ()·katta (past)
- k-ii: ·gar (to show signs of ...ness)
- (hyphen minus) で示すもの:
 - tm-i: -madeni "by ..."
 - tm-ii: -nihà "(have done) at least by ..."
 - m-i: ()-tati "... and others"
 - m-ii: -no (possessive)
 - km-i: -na (modifier)
 - km-ii: -'sou, "seems to be ..."
 - km-iii: -ni "-ly"
- これらに加えて、文と文の境界を数える。文の境界は必要な場合は S0 として示す
- 詞境界の記述・整理は現在の教育ローマ字の主要な課題の一つ

句末イントネーション

- 平叙文は文末のピッチの下降を急にする独特のイントネーションがある
- 典型的な疑問文は疑問符「？」をつけて書くことができ、また、疑問文には多くの場合「疑問のイントネーション」と呼びうるような、下降的に始まり上昇的に終わるピッチ形が伴う
 - この場合、ローマ字綴りにおいても、記号？を使い、それをイントネーションの標識とすれば良い
 - ただし、疑問文であっても疑問のイントネーションが伴わないことがある：
 - 「私はどうすればいいのでしょうか？」のように「でしょうか」で終わる疑問文は疑問のイントネーションを伴わない
 - 疑問のイントネーションが伴わない疑問文は、代わりに ¿ で示す

- 「よ」は疑問文と同じイントネーションを伴うものがあるが、疑問文ではないため、「？」を使わないことが多い。疑問符を使わない場合、代わりに yó とつづる
- yó に似たイントネーションをもち、食べ物を勧めるときの「おいしいよ」やキャッチボールでボールを投げる時の「行くよ」の「よ」のようにアクセントがあると考えられるものは、'yó と綴る
- 意味上の働きは句末イントネーションのようであっても、発音上は通常の R トーンと同様であるものは、通常の R トーンと同様に語頭を大文字で綴る: 'Ne

屈折

- 詞境界のうち、記号 - (hyphen minus) または · (middle dot) で示される境界を跨ぐ語形成プロセスを「屈折」と呼ぶ
- 次の境界を右側にもつ部分を「動詞」と呼ぶ: d·i, d·ii, d·iii, d·iv, d·v, d·vi
- 次の境界を右側にもつ部分を「形容詞」と呼ぶ: k·i, k·ii
- 次の境界を右側にもつ部分を「時名詞」と呼ぶ: tm·i, tm·ii
- 次の境界を右側にもつ部分を「形容名詞」と呼ぶ: km·i, km·ii, km·iii
- 次の境界を右側にもつ部分を「名詞」と呼ぶ: m·i, m·ii

境界下降

- nF である2モーラ間の有意味なピッチの下降を「境界下降」と呼ぶ
- 境界下降は記号 ` (modifier letter grave accent) で示すが、さまざまな条件で前後にスペースを入れたり入れなかったりする
- AP 境界で先行 AP の最後のアクセントが最終モーラの直前にある場合:
 - 特定の語の左側に生じる（左のみにスペース）:
 - 「だけ」: Watasí-ní `da'ke osiè't·e kurè't·a.

- 「みたい」 : Gann'batt-a kedo 'Mou Da'me `mitai.
- 「だろうから」 : Soko' hà Hì'tori de mo l'kè'r-u `da'roukara.
- C1 境界に続く「する」系 : Senntarou' hà Seiei'butai wo si'ki `si'te 'i'r-u.
- 特定の語の右側に生じる（右のみにスペース） :
 - Tu'gi` Watasì,-'no 'bann 'Ne.
 - Niho'nn nì hà Hu'yu` it't-a Ki'ri da.
- A1 境界に生じる（右のみにスペース） :
 - Ka'mì` 'ktt-e 'kita.
- 語中に生じる（スペースなし） :
 - oto'ko`ixtupi'ki
- アクセント以外の条件を満たしていて、アクセントが条件に合わないために境界下降が生じない場合は、下付きの境界下降記号、(modifier letter low grave accent) を同じ位置に挿入する
- 語中の AP 境界も下付きの境界下降記号で示す : 'Ni'honn,Kokugo',Dai'zìtenn
- 文中に倒置がある場合、アクセントにかかわらず境界下降が生じる（両側にスペース） : （「私は明日は仕事だ」という意味で） Asi'ta Sìgoto' `watasì'.

教育ローマ字の管理・更新について

- 教育ローマ字は、2018年に最初のバージョンを公開して以来、変更したい部分を上書きすることで更新してきた
 - 古い規則は必ずしも明示的に廃止されず、「規則が競合する場合は新しい規則が有効」とすることにより、上書きによって無効化されてきた
 - 規則は新しい資料の公開によって追加されるが、その際、どの部分が新しいかや、古い規則のうちどれが無効になるということは必ずしも明示されない
 - 規則の「新しさ」は資料にバージョン番号をつけることによって管理している

- 公開日によって優劣をつけるのではなく、バージョン番号が新しい方が有効。その際、左2桁のみで比較し、右の1桁は考慮に入れない
- 新しい資料を公開する場合でも、古い資料を上書きしたくない場合には、左2桁を据え置く場合がある
- 古い資料を更新する場合、古い規則を意図せず復活させてしまうことがないように、右1桁のみ更新することがある
- Ver. 1.6 以降の更新の一部及び 1.7 以降の全ての更新は公式ブログで告知している：
spokenjapanese.wordpress.com
 - それより古いほとんどの資料は同じブログの「資料集」から閲覧可能: <https://spokenjapanese.wordpress.com/資料集/>
 - 2018年10月より前の資料の一部は現在公開されていない
 - おそらく必要ないが、必要であればサルベージを試みるので、ご連絡ください
 - 将来、このブログでの更新の告知を停止する場合には、事前にその旨を告知する
- 本資料 (初公開時 ver. 4.0.0) の公開をもって、ver. 1.0 よりも古い資料を無効にする
 - 現在、ver. 1.0 よりも古い資料が参照されることはほとんどないため、実質的な影響はないと考えられる

お知らせ

- 本資料の公開をもって
 - 教育ローマ字のバージョンを ver. 4.0 とします
 - ver. 1.0 よりも古い資料を無効にします